

超人気FP!

— ABC ネットニュース 特別連載 —

## 深野康彦の 先取り経済NEWS!!

編集・発行 株式会社 アサヒ・ビジネスセンター 2012年1月10日

今月のトピックス 「国が破綻する可能性は当面無い、パート1」

**新**年明けましておめでとうございます。本年も昨年同様に、皆様方により情報をお伝えできるように頑張っていきます。何卒、よろしく願いいたします。

年明け早々、縁起でもないといわれてしまいそうですが、昨年の秋口からわが国の国債が債務不履行（デフォルト）するのではないかと週刊誌などが騒いでいます。筆者のところにも数誌から取材がありましたが、一貫して日本国債が数年内にデフォルトすることはないと言いつけました。

なぜ筆者が国債が数年内、正確には10年程度はデフォルトしないと考えているのかといえば、財務省が公表しているデータに恣意性があるからです。昨年9月、五十嵐財務副大臣の発言では、「わが国の債務残高は1000兆円にも及ぶ。個人の金融資産は1400兆円あるが、負債も350兆円あるので正味の資産は1050兆円。債務残高と個人の正味資産の差は50兆円しかない。早晚、個人の正味資産を国の債務残高が越えてしまう危険水域に達してしまう。」と述べました。この発言、ちょっと会計学の知識がある人にはすぐ詭弁とわかるはずですが、国の債務残高=1000兆円はグロスの数字、個人の正味資産=1050兆円は、資産マイナス負債のネットの数字だからです。わが国の財務状況を表すネットの数字は、昨年6月に公表された「平成21年度国の財務書類」の「国の貸借対照表」(下記図版)で確認できます。これによると、国は資産を647兆円保有しています。先の五十嵐副大臣が述べた1000兆円から647兆円を差し引けば、353兆円が債務超過額ということになります。もちろん、資産の部には運用寄託金(=公的年金)、有形固定資産の一部、たとえば国の施設や道路、治水など売却できない資産もあると反論もあるでしょうが、正味の債務超過額は報道等で知らされる1000兆円の半分に満たないと考えてもよいでしょう。その債務超過額を個人の正味資産で賄うと考えれば、まだまだわが国の債務残高は危険水域とは言えないのです。

だからといって、放漫財政を筆者も許すことはできませんが、国債(国家)破綻の報道に一喜一憂しないように、右から左に流してもらって構いません。その他の角度からも破綻しない理由はありますが、それは次回に述べることにしましょう。ただし、2月までに注目すべき材料(出来事)があった場合は、そちらを優勢させていただきます。

国の貸借対照表(平成21年度末)

(単位:兆円)

<資産の部>		<負債の部>	
現金・預金	18.8	政府短期証券	96.8
有価証券	91.7	公債	720.6
未収入金等	14.1	借入金	21.9
貸付金	155.0	預託金	8.8
運用寄託金	121.4	公的年金預り金	130.4
貸倒引当金	-2.6	退職給付引当金等	12.4
有形固定資産	184.5	その他の負債	28.1
無形固定資産	0.3	<b>負債合計</b>	<b>1,019.0</b>
出資金	58.2	<資産・負債差額の部>	
その他の資産	5.3	<b>資産・負債差額</b>	<b>-372.0</b>
<b>資産合計</b>	<b>647.0</b>	<b>負債及び資産負債差額合計</b>	<b>647.0</b>